

済生会 総研 News



済生会総研の視点・論点

済生会総研 所長 炭谷 茂

第48回 医療・福祉の影響要素を把握する

6月4日、厚労省の人口動態統計（概数）が公表されたが、予想されていたとは言え、衝撃的な内容だった。2020年の出生数は、1899年の統計開始以来最少の840,832人だった。婚姻件数は、525,490組で戦後最少だった。

今年に入っても妊娠届け状況等から推測すると、さらに今年の出生数が、低下することは、確実にみられる。新型コロナウイルスによって人との出会いが減少しているので、これからも婚姻数の減少は、減少し、出生数の減少は歯止めが掛からず、少子超高齢化と人口減少が加速していく。

人類が経験したことのない少子超高齢化社会と人口減少の長期的趨勢は、政治、経済、社会、文化、生活等あらゆる分野を劇的に変化させる。投票率が高い高齢の有権者が相対的に増加するに伴い、政治は、高齢者の声の重視に傾斜する。労働人口の急激な減少は、経済活動が低迷をもたらし、省力化や外国人労働力の活用を促す。効率性重視や均一的な社会から生活の質や個性の重視の社会へ転換する。

医療や福祉も同様で、根本的な変化から逃れられない。地域のニーズに応じた地域医療構想の推進や個別性が強い高齢者のニーズに合致した地域包括ケアの整備を急がなければならない。高齢者が安心して過ごせる居住体制も著しく遅れている。長い高齢期の暮らし方は、個人の問題に止まらず、社会全体で解決を要する。

一方、地球温暖化の進行等地球環境の激変も医療・福祉への影響は、大きい。地球温暖化の進行によって台風や集中豪雨は、強大化し、被害は、甚大になっていく。災害は、常在化するのだから、医療や福祉の提供者側は、常時備えなければならない。また、熱中症やデング熱などの疾病は、増加していくので、予防対策や医療体制が必要である。

地球温暖化防止対策は、国際的な取り組みが始まっている。対策は、国や企業だけでなくあらゆる組織が参加しなければならない。医療機関や福祉施設も同様であるが、現在はあまり積極的な態度が見られない。しかし、省エネは、サービス水準を低下させないで実施することができるし、経営に寄与できる。

このように医療や福祉サービスに影響を与える要素は、多岐にわたる。他にも国際紛争、水・食糧・エネルギー資源の不足、所得格差の拡大、情報革新、地域社会の変化などたくさんある。

医療・福祉の研究に当たっては、これらの要素を注意深く把握しなければならない。専門分野に閉じこもっては、現実の世界から遊離し、実用性のない研究に終わってしまう。

研究部門

済生会総研 上席研究員 原田奈津子

認定 NPO 多摩草むらの会・社会福祉法人草むらへの訪問

緊急事態宣言が明けた6月22日、認定NPO法人多摩草むらの会、社会福祉法人草むらを訪問する機会を得た。今回、本部事務局総合戦略課と広報室と一緒に取材を行った。ソーシャルファームの中でも先駆的な取り組みを行っている組織として、一度は自分の目で実際にみてみたいと思っていたので、貴重な体験となった。

ソーシャルファームのファームとは、農場 (farm) でなく、企業 (firm) を指しており、就労にあたって困難を抱える方も必要なサポートを受け、他の職員と共に働く、一般企業と同じく経済活動を行う場であるとされている。今回の訪問先では、精神障害の方が多いようであった。具体的な作業として、農作業、パソコンを用いたデザイン作成、弁当や和菓子の製造、レストランでの接客・調理など多岐に渡っており、個々の適性をいかした取り組みを行っているとのことであった。

いきいきとした表情や誇りをもって作業に取り組む姿から、単なる居場所でなく、就労の場であることが伝わった。仕事をするということや役割があるということの意義や意味を改めて感じる事ができた。



デザイン



和菓子



農作物の販売



シイタケの栽培

高品質のシイタケ栽培や手作りの和菓子など「買いたくなるもの」をつくることを実現しており、そこが素晴らしいと思った。また、レストランも常連の方がいらっしゃるようでリピーターがいることの強みを感じた。「おいしいから買う・行く」を意識した事業展開をしていることが大きな特徴であった。

また、コロナ禍で、精神障害の方々の生きづらさへのサポートがさらに重要になってきており、ソーシャルインクルージョン、つまり、すべての人びとが共に支えあう社会の実現が求められているということであった。

多様性を尊重し、生きづらさの根幹にある課題をいかに解決していくのか、私自身も研究を通して検討していきたいと改めて考える機会となった。

*詳細については、機関誌「済生」7月号、さらに、済生会のホームページの「知る・見つける・支えるソーシャルインクルージョン（シンク！）」にて来月掲載予定だそうです。そちらもぜひご覧ください。

人材開発部門

訪問看護ステーション管理者研修

令和3年度訪問看護ステーション管理者研修が5月20日～21日の2日間、本部で開催された。今年度は感染防止対策のため、本部での集合研修開催を中止し、全日程を ZOOM によるオンラインで開催された。全国から51名（うち新任管理者14名）が参加した。

1日目は炭谷茂理事長の基調講演の後、日本訪問看護財団常務理事・佐藤美穂子氏の講義「訪問看護制度をめぐる動向（令和3年度介護報酬改定を主として）」が行われ、新型コロナ禍における訪問看護制度の動向、令和3年度介護報酬改定の主な事項等について解説があった。

2日目の午前中は、全国済生会訪問看護ステーションの6ブロックの代表として6名の管理者から各事業所の取り組みや今後の課題を踏まえて、活動報告・事例発表が行われた。

午後からは、12グループに分かれ「新型コロナウイルス感染症対策に関すること」と「介護報酬改定の説明や各ブロックからの活動報告で解決できなかったこと」の2つのテーマでグループワークを行った。各事業所での悩み、活動内容、今後の課題等について有意義な意見交換と情報共有の場となった。



—編集後記—

今回、ひさびさに家と職場以外の場所へ行くことができました。公園の清掃作業を見せていただいたのですが、丁寧な作業風景と共に、手入れの行き届いた緑の風景に圧倒されました。緑の森林浴効果のせいか、この日は熟睡できました。体調を整えて梅雨時期を乗り越えたいと思います。



(Harada)



連絡先 〒108-0073 東京都港区三田 1-4-28 三田国際ビル 26階

TEL 03-3454-3433 (研究部門)

03-3454-3311 (人材開発部門：済生会本部)

FAX 03-3454-5022

URL <http://soken.saiseikai.or.jp/>

済生会保健・医療・福祉総合研究所

令和3年6月の活動報告

目次

私の研究方法（1） 所長 炭谷 茂	1
研究所長代理のつぶやき 所長代理 松原 了	2
テーマ1【医療】診療サービス指標の作成と公開	3
テーマ2【医療】DPC機能評価係数IIの分析	4
テーマ3【医療】地域包括ケア病棟運用最適化の検討	5
テーマ4【医療・福祉】医療・福祉の質指標の整備と分析評価、活用に関する研究	6
別紙1 介護データベース構築に向けた意見交換会（仮称）開催要綱案	7
テーマ5【福祉】なでしこプランの展開と課題—地域の特性に応じた各地の取り組みから—	8
テーマ6【福祉】済生会独自の地域包括ケアモデルの確立に向けて—地域での暮らしを支える ためのまちづくり—	9
テーマ7【福祉】福祉施設における看取りの現状と課題	10
科 研 費【福祉】福祉施設における被災時の「受援」に関する研究	11
テーマ8【福祉】重症心身障害児（者）施設におけるアセスメントに関する研究（継続）	12
済生会総研 活動実績	13

私の研究方法（1）

済生会保健・医療・福祉総合研究所

所長 炭谷 茂

前回の本欄は、「私の研究遍歴（1）」として今日まで私の研究に関係する経験を述べることで、小学生まで述べた。これからも継続して年齢を追って述べていくことにしている。

しかし、過去を振り替えることに集中するのも気が減入るし、進歩がない。そこで今回は現在研究しているテーマを題材に将来に向けて私の問題意識や研究方法を述べてみたい。これを「私の研究方法」と表題を付けたが、前回の「私の研究遍歴」と交互に掲載することにしたい。いわば前者が現在から将来へ、後者が過去から現在へとなる。

年度末は、毎年のことだが、研究報告書をまとめて委託先に提出する。今年3月には3本と多かったが、締め切りに追われ、ハードな作業だった。収集した膨大な資料を読み込み、作業ノートでポイントをメモ書きしていく。次に全体の論文の構成を考えて執筆に取り掛かる。

15年前ほどからパソコンのワープロ機能で執筆している。当時は高齢の人を除いて、ほとんどの研究者は、ワープロで論文を執筆していた。それまではB4の鉛筆で原稿用紙に書いていた。頭脳の回転に合わせて、手で書いていった。手で書くと、文章が湧き出てきた。執筆のスピードがかなり速かった。休日を1日あれば、400字の原稿用紙20枚くらいなら何とかまとめられたので、手書きから離れられなかった。

しかし、だんだんと出版社から嫌がられていると感じるようになった。某雑誌はワープロ原稿には割増の原稿料が払われていた。

そこでやむを得ずパソコンのワープロ機能で執筆するようになった。最初のころは、速度が上がらず、適切な文章が浮かんでこなかった。しかし、慣れるにつれ、今は逆にワープロでないと執筆できなくなったから不思議である。

論文作成で特に留意していることは、① 明快で分かりやすい表現にすること ② 自分でないと書けない独自性があること ③ 実用的で当該分野に有益であることの3点である。

大学生時代に読んだ法律書は、大御所の教授が執筆したものは、文章が分かりやすく、論理構成が整然としていた。一読するとすっきりと頭に入り、読後感は爽快だった。これに反して、若い研究者の論文は、難解な用語や外国語が頻出し、論理構成が乱れ、何を主張したいのか掴めなかった。

福祉の分野では、経験年数の長い研究者が執筆したもので、生硬な翻訳調の文章で理解ができない論文があった。執筆者自身分かっているのかと言いたくなった。このような経験を踏まえ、今は①のことを厳格に実行している。

研究所長代理のつぶやき

済生会保健・医療・福祉総合研究所

所長代理 松原 了

環境問題—脱炭素社会に向けて

済生会は第二期中期事業計画において国連のSDGsの推進目標17のうち、本会と特に関係の深い12の目標を推進していくこととしている。

7つ目の「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」は地球環境や生活環境のクリーン化に焦点を当てたものである。

環境問題の解決は、持続的な人類生存のためにだれもが望むところである。地球環境の維持改善への取り組みは誰もが認める理念であり、理想であるがゆえに誰も反対すべきものでないことは明白である。

日本の首相が地球温暖化対策に向けた国内二酸化炭素など温室効果ガスの削減目標について、2050年までに実質ゼロとする所信表明演説で方針を示し、2021年4月の気候サミットでは、2030年度に温室効果ガスを2013年度から46パーセント削減することを目指している。さらに、50パーセントの高みに向けて、挑戦を続けていくことを宣言した。

しかし、このことに対して警戒を促す論調の記事が多数見られるようになった。その具体的計画が示されていないことこそが問題であるとの批判がある。

綿密な裏打ちのある計画が伴わないで理念や目標だけが先行すると、経済・産業活動を停滞させることで国益を削ぎ、国力を弱めることになる。欧米や中国の経済利益への誘導の思惑に引きまわされて、気がつけば経済大国の座を譲ることになりかねない、というものだ。

テーマ 1 【医療】 診療サービス指標の作成と公開

氏名	所属
持田勇治（代表）	済生会総研 上席研究員
研究協力員	
酒井 光博	福井県済生会病院 事務 副 部 長
千葉 信行	済生会川口総合病院 医 事 課 長
町田 洋治	済生会中央病院 医 事 課 長
正木 竜二	静岡済生会総合病院 医事課長補佐医事総括室長
オブザーバー	
渡邊 佑輔	済生会中央病院 医事課 入院係

（概要）

経営情報システムの DPC データから診療サービスの指標(ベンチマーク指標)を作成して済生会病院間で情報共有する。済生会病院全体での診療サービスの指標の改善を目指す。

【5月・6月の活動報告】

①データの確認

（入院した週内の薬剤指導管理料の実施率データについての確認）

「入院した週内の薬剤指導管理料の実施率」の算出方法についての問い合わせがあった。当指標では予定入院の患者を対象にしているが、予定外の入院患者に対しての実施に注力しているので、予定外入院患者に対する実施率を算出してほしいとの希望があった。

（対応）⇒ 今後検討する。

②データ作成依頼

改善活動に向けての活用のためリハビリテーションの実施状況の提供

（対応）⇒ 平成元年度実績を集計して資料を作成して提供した。

③その他（令和2年度診療サービスの指標作成）

令和3年7月に全済生会病院の令和2年度 DPC データが揃う。（予定）

⇒ これまでの指標の定義の確認・見直しを行うとともに令和2年度指標の作成を開始する。

テーマ2 【医療】 DPC機能評価係数Ⅱの分析

氏名	所属
持田勇治（代表）	済生会総研 上席研究員
研究協力員	
福田和宏	横浜市南部病院 医事課長
波多野隆行	済生会横浜市東部病院 経営企画室室長
井上健二	済生会前橋病院 医事課係長
オブザーバー	
小砂剛志	済生会横浜市南部病院 医事課

（概要）

経営情報システムのDPCデータからDPC機能評価係数Ⅱの指数を様々な方法で算出しDPC機能評価係数Ⅱと繰り返し比較を行い、DPC機能評価係数Ⅱの決定方法プロセスを理解する。また、DPCデータ分析のワークショップを開催して、データ分析可能な人材育成を目指す。

【5月・6月の活動報告】

Web会議でのワークショップを開催に向けてワークショップのテーマ、具体的な内容を検討している。

テーマ3 【医療】 地域包括ケア病棟運用最適化の検討

氏名	所属
持田勇治（代表）	済生会総研 上席研究員
研究協力員	
名古屋 和也	済生会向島病院 事務次長
高原 裕一	済生会二日市病院 医事企画課係長
山形 篤史	香川県済生会病院 医事課課長
宮竹 浩史	済生会西条病院 医事課長
矢野 清久	済生会今治病院 医事課・診療情報課課長
山中 信也	済生会松山病院 医事課主任

（概要）

済生会本部経営情報システムから、一般病棟から地域包括病棟・病床へ移行した場合の経済的な影響を把握することが可能なシュミレーションツールを開発する。また、地域包括ケア病棟・病床移行後のベッドコントロールの方法についての運用基準を作成する。

【5月・6月の活動報告】

各病院のアローズを使用して地域包括ケア移行のシミュレーションに必要なデータ出力ツールが完成した。現在研究協力員に配布し実際に使用してもらい評価を依頼中。

テーマ 4 【医療・福祉】医療・福祉の質指標の整備と分析評価、活用に関する研究

氏名	所属
山口 直人（代表）	済生会総研 研究部門長
持田 勇治	済生会総研 上席研究員
吉田 護昭	済生会総研 研究員
藤本 賢治	済生会総研 客員研究員

【概要】

済生会の医療・福祉施設における医療・福祉サービスの実施体制、実施プロセス、そして、アウトカムを定量的に評価して情報提供し、その活用促進を通じて、施設における医療・福祉の質改善を支援する。

【活動報告】

- ・ 医療・福祉の指標公開事業 <事業推進課・藤本客員研究員>
「令和元年度医療・福祉の指標」を令和3年度中に完成する予定。
平行して、「令和2年度医療・福祉の指標」の集計を令和3年度後半には開始する予定。
- ・ 医療・福祉の指標活用促進 <事業推進課・藤本客員研究員>
日本医療機能評価機構が進める「医療の質向上のための体制整備事業」において、済生会4病院がパイロット事業に参加するので、これらの病院における指標活用促進に関する取り組みを参考にしつつ、済生会病院全体での活用促進の具体的方法を検討する。
- ・ 介護データベース事業化に向けた準備 <山口、持田、吉田、藤本>
6月14日 総研内で今後の進め方について検討を行った（別紙1）。
- ・ 済生会病院医師の働き方「フォローアップ施設調査」 <山口、持田>
済生会医師に対するフォローアップ調査について吉村公雄客員研究協力員と検討を開始した。
- ・ 入院中感染症罹患が入院中死亡、入院期間に与える影響 <山口、持田>
済生会保健・医療・福祉総合研究所報第1号に研究成果を掲載した。
「入院中院内感染が死亡退院リスク、在院日数、医療収益に与える影響～済生会74病院のDPCデータ分析から見えてきたこと～」山口直人、持田勇治
第59回日本医療・病院管理学会学術総会に演題申請した。
「入院中院内感染が死亡退院リスク、在院日数、医療収益に与える影響～済生会74病院のDPCデータ分析から見えてきたこと～」山口直人、持田勇治
各施設の入院中院内感染の特徴について分析を継続中。

介護データベース構築に向けた意見交換会（仮称）開催要綱案

2021年6月23日版 済生会総研 山口直人作成

【概要】

「済生会介護データベース構築に向けた実証研究」の成果を報告し、今後の進め方について、済生会介護施設職員との意見交換を行う。

【実施案】

- ・ 開催は、済生会総研、本部情報管理課、本部社会福祉・地域包括ケア課、済生会老人保健施設協議会、済生会福祉施設長会の共催とする方向で交渉中。
- ・ 参加対象者は、済生会老健施設、特養施設の職員とする。
- ・ 開催は ZOOM によるWEB開催とする。
- ・ 開催時期は令和 3 年 9 月頃とし、協議のうえ決める。
- ・ 時間は 120 分を想定する。
- ・ 参加者が多数の場合は複数回の開催も検討する。老健施設と特養施設を開けるかどうかは協議のうえ決める。

【プログラム案】

1. 「済生会介護データベース構築に向けた実証研究」成果の概要（40 分）
（山口、持田、吉田、藤本）
2. グループワーク（30 分）
 - ・ 参加者を複数施設からの 6 名程度の参加者によるグループに分け、スモールグループディスカッションにより、介護データベースに関して自由に意見を交換してもらおう。
3. 各グループからの発表と総合討論（40 分）
 - ・ 予め、発表者を各グループで決めてもらい、意見交換の結果を発表してもらおう。
4. 総括（10 分）

【今後のスケジュール】

- ・ 6 月中に開催要綱案の検討を進め、7 月 12 日のミーティングで固める。
- ・ 要項が決定次第、案内を施設に送付する（メールを想定）

テーマ 5 【福祉】なでしこプランの展開と課題—地域の特性に応じた各地の取り組みから—

氏名	所属
原田 奈津子（代表）	済生会総研 上席研究員

【概要】

本研究の目的は、なでしこプランの取り組みの評価と検証であり、法律や制度に基づく取り組み、隙間で展開されている取り組み、その地域の特性やニーズに基づいて展開されている取り組みについて精査することを目指す。取り組みの評価と検証によって今後の効果的な実践に活用できるものとする。

【5・6月の活動報告】

総研の所報に「地域での暮らしを支える医療と福祉の実践としてのなでしこプランとソーシャルインクルージョン —済生会が果たす役割と意義—」のタイトルで原稿を執筆した。済生会における生活困窮者支援としての「なでしこプラン」では、ホームレス、DV 被害者、刑務所出所者、外国人などへの訪問診療、健康診断、予防接種等を行い、さらに地域への貢献として、子ども食堂や学習支援など公益性の高い取り組みを展開していることに関する現状について述べた。さらに、ソーシャルインクルージョン、つまり、社会的援護を必要としている人々すべてを対象にし、地域社会でのつながりをつくり、排除されない社会づくりを目指す理念をもとにした新たな取り組みが求められていることについてまとめを行った。

この他、6月22日には、認定NPO法人多摩草むらの会・社会福祉法人草むら視察を訪問し、先駆的なソーシャルファームについて情報収集を行った。総研 News2021年6月号に記事を掲載した。

テーマ 6 【福祉】 済生会独自の地域包括ケアモデルの確立に向けて —地域での暮らしを支えるためのまちづくり—

氏名	所属
原田 奈津子（代表）	済生会総研 上席研究員
吉田 護昭	済生会総研 研究員

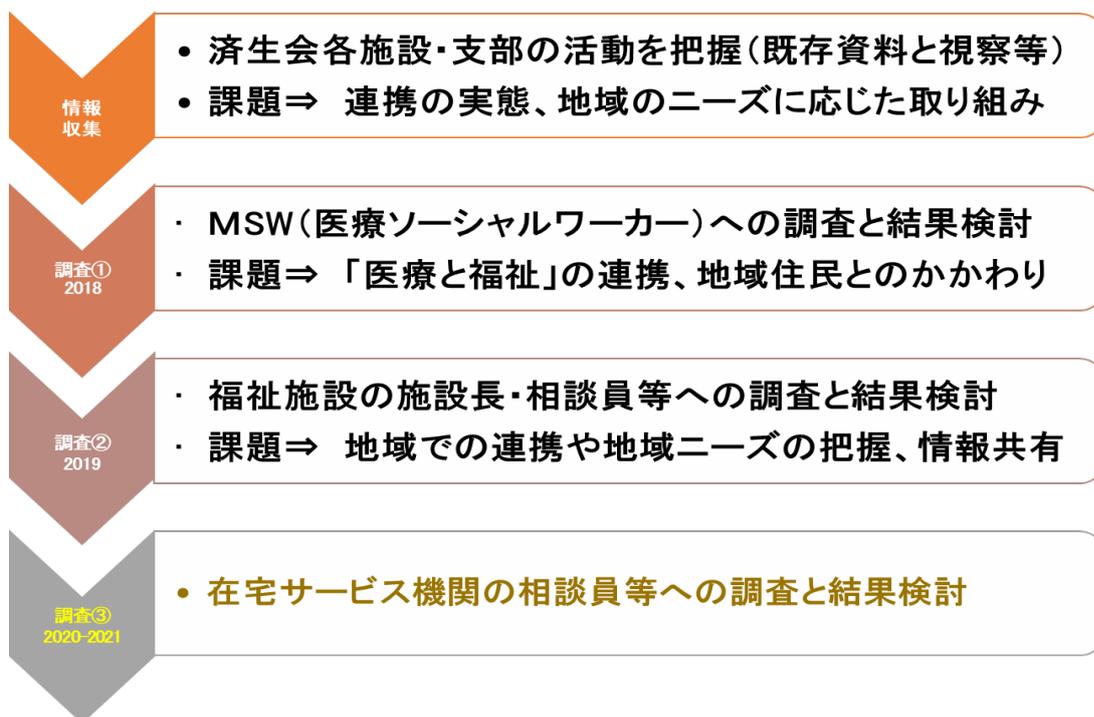
【概要】

本研究の目的は、済生会各地の保健・医療・福祉の連携の取り組みを蓄積し、地域包括ケアモデルを可視化することである。また、地域包括ケアを担う職員を対象に調査を実施すると共に、研究協力者（現場職員）参画の下、研究ミーティングを実施し、調査結果について検討している。済生会における地域包括ケアのモデルとして、共通要素を導き出し、理論化し、実践に寄与することを目指す。

【5・6月の活動報告】

済生会の在宅サービスの職員を対象とした調査の実施を予定しており、実施時期を調整している。これまでに実施した調査や先行研究をもとに課題整理を行っている。

研究のスケジュールと課題の整理



テーマ7【福祉】福祉施設における看取りの現状と課題

氏名	所属
原田 奈津子（代表）	済生会総研 上席研究員

【概要】

本研究の目的は、済生会の福祉施設における看取りの取り組みについて情報収集を行い、看取りの先駆的なモデルとして、共通要素を導き出し、理論化し、実践に寄与することである。

介護老人福祉施設の相談員へのインタビュー調査、さらに質問紙調査を実施し、研究協力者（現場職員）参画のもと、研究ミーティングを行い、調査結果について検討する。

【5・6月の活動報告】

インタビュー調査の実施を以下の通り予定している。調査時期など調整中（福祉施設のワクチン接種実施状況等）である。医療機関とのかかわりについて先行研究をまとめている。

<調査に関する概要>

対象：介護老人福祉施設の相談員

調査方法：半構造化面接

* 総研倫理委員会の審査にて調査内容の承認済

【調査項目】

① 施設において看取りを行っていますか（実績等）

② 施設における看取りの促進要因

本人の意思確認、家族との調整、情報共有、マニュアルの策定、医療機関との連携
人員配置、連携

③ 施設における看取りの阻害要因

本人の意思確認、家族との調整、情報共有、マニュアルの策定、人員配置、医療機関との
連携

④ 看取りに関する情報共有や研修の実施

⑤ 今後に向けて

科研費 【福祉】福祉施設における被災時の「受援」に関する研究

期間 令和2～4年度（3年間）

氏名	所属
原田 奈津子（代表）	済生会総研 上席研究員

【概要】

本研究の目的は、災害支援活動と福祉施設における受援についての課題整理し、福祉施設における被災時の受援についての取り組みについて精査することにある。受援における必要な事項を導き出し、理論化し、実践に寄与することを目指す。

【5・6月の活動報告】

- ・ 中間レポートの提出を行った（5月末）。
- ・ 福祉施設の受援に関する調査と被災時のマニュアル整備に関する調査について、本部事務局の災害担当と打ち合わせを行った（6月）。ブロック研修などのスケジュールについての情報収集を行った。

【2021年度 学会発表】

日本介護福祉学会 第29回大会 2021年8月29日（日）Web開催

「被災地のDCAT活動に参加した職員の派遣元施設の現状と課題—済生会DCATから—」

→査読承認済、zoomにて発表予定

*この他、日本社会福祉学会 第69回秋季大会 2021年9月11・12日（土・日）Web開催でも発表を予定している（現在、発表申請中）

テーマ 8【福祉】重症心身障害児（者）施設におけるアセスメントに関する研究（継続）

氏 名	所 属
吉田 護昭（代表）	済生会総研 研究員

【概要】

本研究は施設で暮らす重症心身障害児（者）「以下、（入所児者）」の生活の質を高め、望む生活をよりの確に実現することを目指している。

【6月の活動報告】

研究課題Ⅰ：ツールの開発

(1) 第1回研究ミーティング（Zoom）

6月15日（火）10：00～11：30

参加者：調査協力者 11名

内容：インタビュー調査結果の報告と結果についての検討

(2) 今後の予定

- ・インタビュー調査の結果の報告書をまとめる（6月末までに）
- ・報告書を調査協力者および施設に配布する（7月初旬）
- ・第2回研究ミーティング開催（8月下旬から9月予定）の準備
調査結果における課題について研究をすすめていく
内容：「わからなさ」に関するインタビュー

研究課題Ⅱ：重症心身障害児（者）施設職員における事例検討会の有効性に関する実証研究

- ・現在、事例検討会の様式作成や事例検討会の開催方法などの資料等を準備している
- 8月：「事例検討会開催にあたっての説明」
- 10月：「第1回事例検討会」
- 12月：「第2回事例検討会」
- 2月：「事例検討会の振り返り」
- ※4月の活動報告で示した内容から計画変更することになった

スケジュール(案)

項 目	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事例検討会に関する事前説明								
第1回事例検討会								
第2回事例検討会								
事例検討会の振り返り								
まとめ								

済生会総研 活動実績

炭谷所長（令和3年4月～6月）

1 論文

『知的障害者の就労の課題と対策』 令和3年4月 日本社会福祉弘済会提出
『環境福祉と鉱業の歴史（3）～（4）』 環境新聞4月28日、6月2日

2 時事評論

『こども庁成否の鍵』 (北日本新聞他 令和3年5月9日)
『孤立対策を急げ』 (時事通信厚生福祉 令和3年6月8日)
『生活保護の不都合な真実』 (北日本新聞 他 令和3年6月20日)

3 講演

『ソーシャルファームとソーシャルインクルージョン』 東京ソーシャルデザイン企画主催
令和3年5月18日(WE B配信)
『最近の人権を巡る状況』 東京都・東京労働局主催 就職差別解消シンポジウム
令和3年6月9日
『人権・同和問題の知識』 東京都特別区職員研修所 令和3年6月16日

4 社会活動

かながわ人権政策推進懇話会 座長として出席 令和3年5月11日
日本更生保護協会理事会出席 令和3年5月24日
墨田区人権啓発基本計画改定検討委員会 委員会委員長として出席
令和3年5月26日・6月24日
日本社会事業大学評議員会 議長として出席 令和3年5月27日
朝日新聞厚生文化事業団理事会出席 令和3年6月16日

総研研究部門（令和3年5月～6月）

5月17日 総研研究ミーティング（全員）
6月7日 山崎顧問と研究ミーティング（吉田）
6月14日 済生会介護データベース打ち合わせ（山口、持田、吉田、藤本）
6月15日 調査協力者（11名）と研究ミーティング（吉田）
6月17日 医療施設事務長会議で総研活動報告（山口）
6月21日 総研研究ミーティング（全員）
6月22日 認定NPO法人多摩草むらの会/社会福祉法人草むら視察（原田）

本報告に関する問い合わせ、要望などは各テーマ担当者にお願いします。

テーマ 1～3	持田 勇治	y.mochida@saiseikai.or.jp
テーマ 4	山口 直人	n.yamaguchi@saiseikai.or.jp
テーマ 5～7	原田 奈津子	n.harada@saiseikai.or.jp
テーマ 8	吉田 護昭	m.yoshida@saiseikai.or.jp
科研費	原田 奈津子	n.harada@saiseikai.or.jp